

ライトノベルと一般小説の脱文脈化の観点からの分析

田中弥生(国立国語研究所) 加藤祥(目白大学) 柏野和佳子(国立国語研究所)

1. はじめに

小説の文体は、語彙や読点の出現など、さまざまな観点から分析されている。ライトノベル（以下、ラノベ）は、広辞苑によれば、「和製語 light novel：小説の分類の一つ。表紙・挿絵にイラストを多用し、アニメ・漫画に親しんだ世代が読みやすいようにしたもの。ジャンルは恋愛・SF・ファンタジーなど多岐にわたる。」とされているが、メイナード(2012)は、会話らしい会話が用いられること、繰り返し、記号の使用、文、談話、ビジュアルなどの観点によって考察している。本研究は、ラノベと一般の小説の特徴を、脱文脈化の観点から検討する。脱文脈化の観点からの分析のために、修辞機能分析の分類法(田中, 2022)を用いる。本分類法では、修辞機能を「話し書き手が発信する際に、言及する対象である事態や事物や人物等を捉え表現する様態を分類し概念化したもの」と定義する。また文脈とは話者の「いま・ここ・わたし」とし、脱文脈度を「発話がコミュニケーションの場「いま・ここ・わたし」にどの程度依存しているか」の程度を表す概念とする。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese:以下,BCCWJ, 前川, 2014)の図書館サブコーパス（以下, LB）には、専門度、客観度、硬度、くだけ度、語りかけ性度の5つの観点の文体情報が付与されており、小説サンプルには、客観度を除いた4観点が付与されている(柏野, 2015)。加藤・浅原(2023)は、柏野(2015)の、NDC¹が「9X3」(小説)のサンプルのうち、文体情報が付与された1,572サンプルについて、分野(書店分類、ジャンルなど)や形式(ショートショート、ノベライズ、ライトノベルなど)で分類し、その分類と文体指標の分布を確認している。BCCWJのLBについての修辞機能分析のパイロットスタディ(田中ほか, 2023)では、分析した4つのサンプルには共通する修辞機能があることと、サンプルごとに特徴的な修辞機能があることが確認され、田中ほか(2024)では、客観的とされたサンプルと主観的とされたサンプルの特徴が異なること、また、書籍のテキストは基本的には客観的なものであるが、脱文脈度の低い修辞機能の使用割合が高い場合に、より主観的だと判断される可能性がうかがえた。文体情報の異なりによって脱文脈度に違いがあることが明らかになっているため、本発表では、文体情報が一致しているサンプルを分析対象として、ラノベと一般の小説について、脱文脈度の観点からの特徴を確認する。

2. 分析

2.1. 分析対象

分析対象データは、BCCWJのLBのうち、柏野(2015)による文体情報が一致している小説サンプルで、加藤・浅原(2023)において分野(ジャンル)が「ミステリー」に分類されているものの中から、形式が「ライトノベル」に分類された小説2サンプルと一般の小説2サンプル、合計4サンプルを比較する。表1に分析対象サンプルの情報を示す。

表 1.分析対象サンプル

ジャンル/形式	サンプルID	NDC	書籍タイトル	専門度	硬度	くだけ度	語りかけ性度
ミステリー ／ラノベ	LBc9_00152	913	恋の証拠を捜しだせ！	4 中高生向き	4 とても軟らかい	2 どちらかといえばくだけている	3 特に語りかけ性はない
	LBg9_00112	913	あたしはニネコ片想いだってかまわない	4 中高生向き	4 とても軟らかい	2 どちらかといえばくだけている	3 特に語りかけ性はない
ミステリー ／一般	LBf9_00213	913	三十三人目の探偵	4 中高生向き	4 とても軟らかい	2 どちらかといえばくだけている	3 特に語りかけ性はない
	LB19_00006	913	少女達がいた街	4 中高生向き	4 とても軟らかい	2 どちらかといえばくだけている	3 特に語りかけ性はない

2.2. 分析方法

修辞機能分析は、選択体系機能言語理論(Systemic Functional Linguistics)の枠組みの英語談話分析法 Rhetorical Unit

1 日本十進分類法
2 加藤・浅原(2023)では、書店や出版社の分類および説明、書籍説明において「ライトノベル」とされているものを「ライトノベル」に分類している。
3 ニネコ部分は、表示できない文字を示す下駄記号で、書籍ではハートの記号の中に「ラブ」と書いてある。

Analysis (Cloran, 1994; 1999) を日本語に適用した修辞ユニット分析 (佐野, 2010; 佐野・小磯, 2011) に、日本語文法の枠組みで修正を加えたものである。分析単位はメッセージ (概ね節) で、「定型句類」 (相槌, 挨拶, 定型句など) , 「主節」 (単文, 及び主節) , 「並列」 (従属度の低い従属節) , 「従属」 (従属度の高い従属節) , 「引用」 (“と思う” など で引用されている部分) に分類する。 「主節」「並列」「引用」について、発話機能・時間要素・空間要素を分類し、表2に示したように、これらの組み合わせから修辞機能と脱文脈指数が特定される。【行動】[01] がもっとも文脈に依存した表現で、【一般化】[14] がもっとも脱文脈度の高い表現である⁴。

発話機能は「提言」か「命題」に分類する。「提言」は、品物・行為の交換に関する提供・命令で、「お塩をどうぞ」「その本を取って」などが該当し、修辞機能【行動】脱文脈化指数[01]と特定される。「命題」は情報を交換する陳述・質問で、「私はシマエナガが大好き」「シマエナガは日本では北海道にだけ生息している」などが該当する。時間要素と空間要素は、発話機能が「命題」のメッセージについて認定する。時間要素は、話者のいる時間「いま」を基準として、メッセージで表現されている出来事がいつ起こったかを示す要素で、テンスや時間を表す副詞などによって表現される。「シマエナガがそこにいる」は「現在」, 「去年北海道で見たシマエナガは可愛かった」は「過去」, 「来月北海道に行こう」は「未来意志的」, 「私はシマエナガが大好き」のような嗜好や、「シマエナガはエナガ科の鳥だ」のような恒久的なものは「習慣・恒久」に分類する。書籍の分析では著者が執筆した時間を「いま」と考えることが可能だが、本研究の対象である小説では、小説内での登場人物の観点による時間と作家の観点による時間が考えられる。空間要素は、話者や著者のいる場所「ここ・わたし」を基準として、主語、主題、述部の主体との空間的距離から判断する。「私」「あなた」が主語であれば「参加」, 「シマエナガがそこにいる」はシマエナガが話者と同じ空間にいると考えられるため「状況内」, 「去年北海道で見たシマエナガは可愛かった」「シマエナガは日本では北海道にだけ生息している」のシマエナガは話者のいる空間には存在していないと考えられるので「状況外」, 「シマエナガはエナガ科だ」はシマエナガ一般について述べているので「定義」に分類する。表2を参照し、発話機能、時間要素、空間要素の組み合わせから、修辞機能と脱文脈化指数を特定する。表3、表4に、本発表の分析対象のサンプルのアノテーション例を示す⁵。

表 2. 修辞機能と脱文脈化指数の特定

定義	高 ↑ 空間的距離のレベル ↓ 低						一般化 [14]
状況外	報告 [09]		状況外回想 [10]	予測 [11]	推量 [12]	説明 [13]	
状況内	実況 [02]		状況内回想 [03]	状況内予想 [05]	状況内推測 [06]	観測 [08]	
参加	行動 [01]		計画 [04]			自己記述 [07]	
空間要素	今ここわたし ← 低 時間的距離のレベル → 高						
時間要素	現在		過去	未来意志的	未来非意志的	仮定	習慣・恒久
発話機能	提言		命題				

表 3. LBg9_00112 (ラノベ) 冒頭

メッセージ	発話機能	時間要素	空間要素	修辞機能[指数]
a 2	(見出しのため対象外)			
b ふ一つ、(φ=私は ⁶) どうにかギリギリのところで助かったらしい。	命題	現在	参加	実況[02]
c 玉美は、やっとのことでモーターボートにはい上がると、	(メッセージの種類 従属)			
d エンジン・ルームのわきにかくれた。	命題	現在	状況外	報告[09]
e 和馬も晶子も、気づいていないようだ。	命題	現在	状況内	実況[02]
f でも、子猫ちゃんだけは気がついたのか、	(メッセージの種類 従属)			
g かわいい目でこっちを見ている。	命題	現在	状況内	実況[02]

表 4. LBf9_00213 (一般) 冒頭

メッセージ	発話機能	時間要素	空間要素	修辞機能[指数]
a 5	(見出しのため対象外)			
b 「(φ=この光景は) うそみたい…」	命題	習慣・恒久	状況内	観測[08]
c つぐみは、それしか言葉を見つけないことができなかった。	命題	現在	状況外	報告[09]
d ベルエア学園スポーツ・アリーナ	(節でないため対象外)			
e (φ=人々は、) 普通の学校のような体育館という呼び方では、この施設の素晴らしさを言い表すことはできない。	命題	習慣・恒久	状況外	説明[13]
f アンツーカーの室内トラック。	(節でないため対象外)			
g フルサイズでとれるバスケット・コート。	(節でないため対象外)			

表3のbは、主語が明示されていないが、「ふ一つ」という感嘆詞があることから「私は」を補うことができ、空間要素は「参加」となる。一方、cとdは「玉美は」と名前で始まっており、小説の作家目線と考え、空間要素は「状況外」である。また、e, f, gは「玉美」視点と考え、空間要素は「状況内」である。表4のcは小説の作家目線で空間要素が「状況外」である。

⁴ 以下、本文中では、修辞機能を【】で、脱文脈化指数を[]で示す。

⁵ アノテーションは2名で行い、信頼性検討のためカッパ係数を求めたところ $\kappa = .646$ という実質的に一致しているとみなされるカッパ係数が確認された。

⁶ 明示されていないものを復元する場合φで示す。

⁷ 空間要素対象はボールド (太字) で、時間要素対象はイタリック (斜体) で示している。

3. 分析結果

サンプルごとの修辭機能の出現頻度と割合を表5および図1に示す。ラノベでは【実況】[02]が多く、一般小説では【説明】[13]が多く用いられていることがわかる。

表 5. サンプルごとの修辭機能の出現頻度

形式／ジャンル	サンプル ID	行動 [01]	実況 [02]	状況内回想 [03]	計画 [04]	状況内予想 [05]	状況内推測 [06]	自己記述 [07]	観測 [08]	報告 [09]	状況外回想 [10]	予測 [11]	推量 [12]	説明 [13]	一般化 [14]	合計
ラノベ／	LBe9_00152	2	26	1	4	1	1	15	18	84	1	0	0	16	0	169
ミステリー	LBg9_00112	0	28	8	4	2	2	19	14	18	23	1	0	10	0	129
一般／	LBf9_00213	1	3	4	0	0	0	8	11	19	11	0	0	33	0	90
ミステリー	LB19_00006	5	23	20	43	22	2	64	41	83	51	22	1	116	0	493

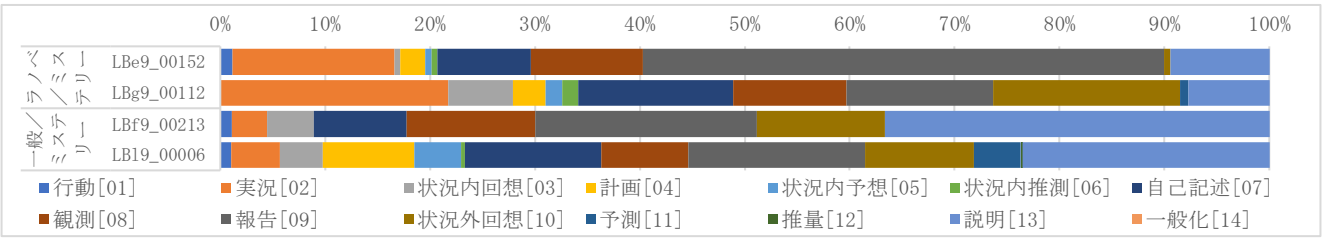


図 1. サンプルごとの修辭機能の割合

また、サンプルと修辭機能との対応関係を調べるために対応分析を行った⁸。結果を図2に示す⁹。一般小説（般f9_213，般19_006）は第一軸（寄与率60.2%）で左側，第二軸（寄与率26.5%）で上部に配置され，ラノベ（ラe9_152，ラg9_112）は第一軸で右側に配置されている。対応分析の結果から次のような関連が見られた。

- 4つのサンプルの中央に【自己記述】[07]，【観測】[08]が位置しており，共通する修辭機能と考えられる。
- 一般小説は【説明】[13]が特徴的で，例えば，表4のeの「（φ＝人々は、）普通の学校のような体育館という呼び方では、この施設の素晴らしさを言い表すことはできない。」のような，小説内で対話がなされている時空にとらわれない内容が多いことが考えられる。
- ラノベは【実況】[02]が特徴的と考えられる。ラe9_152では【報告】[09]，ラg9_112は第一軸の中央寄りに位置し，【状況外回想】[10]，【状況内回想】[03]がより多い。例えば，表3のbの「ふーっ、（φ＝私は）どうにかギリギリのところで助かったらしい。」のような登場人物の発話や，eの「和馬も晶子も、気づいていないようだ。」のような登場人物目線でのその場での陳述が多いことが考えられる。

表6にラノベのサンプルLBe9_00152の【実況】[02]の例を，表7に一般小説のサンプルLB19_00006の【説明】[13]の例を示す。

表 6. LBe9_00152（ラノベ）の一部

	メッセージ	発話機能	時間要素	空間要素	修辭機能[指数]
a	なんでまた今ごろ、母が私の部屋に…（φ＝いるのか）！？	命題	現在	状況内	実況[02]
b	「そんなことしたァ？ 私…」	命題	現在	参加	実況[02]
c	「ええ、（φ＝あなたは）しました。」	命題	現在	参加	実況[02]
d	あやうく、私の唇が奪われるところでしたよっ」	命題	現在	状況内	実況[02]

⁸ 分析にはRのca関数を用いた。出現頻度が10件以下の修辭機能は除外した。

⁹ 図内ではサンプルIDを省略し，サンプルIDの前にラノベ（ラ）と一般（般）を示している。

表 7. LB19_00006 (一般) の一部

	メッセージ	発話機能	時間要素	空間要素	修辞機能[指数]
a	本当に葬儀の時に、高校生の女の子が佐久間詩織と秘書の仲を噂していたのを小耳に挟んだというのなら、	(メッセージの種類 従属)			
b	(ϕ =中山は) どうしてその子達から直接話を訊かないのか。	命題	習慣・恒久	状況外	説明[13]
c	中山はこれと目をつけた相手にはとことん食い下がつて結局話を聞き出してしまおうプロだ	命題	習慣・恒久	状況外	説明[13]
d	本当に佐久間詩織が殺されたという証拠が欲しいなら、	(メッセージの種類 従属)			
e	(ϕ =中山は) 秘書の男と詩織との仲を知っていた人間からまず、話を聞き出すべきではないのか…	命題	習慣・恒久	状況外	説明[13]

4. 考察

分析の結果から、今回の4つのサンプルの分析では、ラノベと一般小説に共通する修辞機能が【自己記述】[07]、【観測】[08]であることが明らかになった。田中ほか(2023; 2024)では、書籍サンプルに共通して用いられる修辞機能は【説明】[13]であることが明らかになっており、今回の分析対象である小説は、これまで分析してきた書籍サンプルとは異なる性質をもち、脱文脈度が低いものと考えられる。また、ラノベと一般小説では使用される修辞機能が異なり、ラノベでは【実況】[02]、一般小説で【説明】[13]が特徴的であることから、脱文脈度に違いがあることがうかがえた。

5. まとめ

本発表では、ラノベと一般の小説の特徴を、文体情報が一致しているサンプルを用いて、脱文脈化の観点から検討した。その結果、小説に共通する修辞機能は先行研究で明らかになった書籍に共通する修辞機能より脱文脈度が低いことが明らかになった。小説の中でもラノベについては、より脱文脈度の低い修辞機能が用いられているが、小説による違いもあることがうかがえた。文体情報の一致しているサンプルを分析に用いているため、脱文脈度の特徴がラノベと一般書籍の違いである可能性が高いと考えられる。本発表では、ラノベと一般小説それぞれ2サンプルずつの分析であった。今後、分析対象を増やして、本発表での結果を確認していく予定である。

謝辞 本研究はJSPS 科研費 JP23K00569 によるものです。

参考文献

- C. Cloran(1994). *Rhetorical units and decontextualisation: An enquiry into some relations of context, meaning and grammar*. Unpublished doctoral dissertation, University of Nottingham Nottingham.
- C. Cloran(1999). Contexts for learning. Frances C (Ed.), *Pedagogy and the Shaping of Consciousness: Linguistic and Social Processes*. London: Continuum International Publishing. 31-65.
- 加藤 祥・浅原正幸(2023)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の小説サンプルに対する分類情報付与 国立国語研究所論集 25, 59-74.
- 柏野和佳子(2015). BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報(2015 年公開第 1 版). <https://doi.org/10.15084/00003109>
- 前川喜久雄(監修) 山崎誠(編)(2014). 書き言葉コーパス—設計と構築—. 講座日本語コーパス 2. 朝倉書店.
- メイナード, 泉子・K (2012) ライトノベル表現論: 会話・創造・遊びのディスコースの考察 明治書院.
- 新村出編(2018). 広辞苑第七版. 岩波書店.
- 佐野大樹(2010). 日本語における修辞ユニット分析の方法と手順 ver. 0. 1. 1: 選択体系機能言語理論 (システムック理論) における談話分析 (修辞機能編), <https://researchmap.jp/kotonoha/>資料公開/.
- 佐野大樹・小磯花絵 (2011). 現代日本語書き言葉における修辞ユニット分析の適用性の検証—「書き言葉らしさ話し言葉らしさ」と脱文脈化言語文脈化言語の関係— 機能言語学研究 6, 59-81.
- 田中弥生(2022). 修辞機能と脱文脈化の観点からの日本語談話分析 博士論文, 東京大学大学院総合文化研究科. (未公開)
- 田中弥生・柏野和佳子・加藤 祥(2023). 書籍の文体と修辞機能の分析のパイロットスタディ 言語資源ワークショップ発表 論文集 1, 142-150.
- 田中弥生・柏野和佳子・加藤 祥(2024). 書籍の文体情報と脱文脈度の関連—客観度との対応のパイロットスタディー— 社会言語科学会第 48 回大会発表論文集, 367-370.